
MUSICA DELL'ARTE TOKIO

ムジカ・デラルテ・トウキョウ演奏会

バロック音楽の夕べ

'87. 11月27日(金)

岩手県民会館中ホール

午後6時半開演

ごあいさつ

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

代表 木村吉彦

本日は、お忙しいなかようこそおいで下さいました。

この演奏会は、昨年11月の「鈴木雅明チェンバロリサイタル」につづいて、国内外の第一線で御活躍中の音楽家を迎えての演奏会です（鈴木氏にもメンバーとして参加していただいております）。「ムジカ・デラルテ・トウキョウ」は、より音楽的密度の濃い、優れた室内楽演奏を目的として、本年2月、前田信吉氏（ファゴット奏者、芸大講師——今回は都合により不参加）の提唱により結成された音楽家グループで、昨秋と今春の二回、村松楽器の後援により、東京に於いて演奏会を開催し、好評を博しておられます。メンバーは、細川順三氏（N響フルート奏者）、小畑善昭氏（新日フィル首席オーボエ奏者）、鈴木雅明氏（オルガン・チェンバロ奏者）、佐々木正利氏（声楽家、二期会会員）から成り、いずれも我が国を代表する一線級のソリストです。しかも、永年にわたる音楽仲間としての交流があり、息のぴったり合ったその演奏から醸し出される高い芸術性により、これ迄二度の演奏会に於いても、満員の聴衆は心地良い興奮と深い感動に包み込まれました。今夜の演奏会でも、又、華麗なるヴィルトーゾの調べを響かせてくださるに違いないものと、私自身、期待に胸をふくらませております。

地方におきましては、本格的な音楽芸術に接することが必ずしも容易ではありません。私達カンタータ・フェラインが主催して、演奏家の先生方をお招きする機会をこれからももち続けたいと思っております。今後とも、皆様のご理解・御支援をよろしくお願いいたします。

プログラム

1 G.P.Telemann / Trio Sonate e-moll (Fl,Ob,B•C)

G.P.テレマン／トリオ ソナタ ホ短調 (フルート, オーボエ, 通奏低音)

2 J.M.Leclair / Sonate G-dur (Fl,B•C)

J.M.ルクレール／ソナタ ト長調 (フルート, 通奏低音)

3 J.S.Bach / Qui tollis peccata mundi (Ten,Ob,B•C)

〈aus Messe g-moll〉

J.S.バッハ／「世の罪を除きたもう主よ」 (テノール, オーボエ, 通奏低音)

〈ミサ曲ト短調より〉

J.S.Bach / Benedictus (Ten,Fl,B•C)

〈aus Messe h-moll〉

J.S.バッハ／「祝せられたまえ」 (テノール, フルート, 通奏低音)

〈ミサ曲口短調より〉

4 F.Couperin / Huitième Ordre (Cemb)

F.クーブラン／第8のオルドルより (チェンバロ)

————— 休 憩 (10 分) —————

5 G.P.Telemann / Sonate e-moll (Fg,B•C)

G.P.テレマン／ソナタ ホ短調 (ファゴット, 通奏低音)

6 G.Böhm Capriccio D-dur (Org)

G.ベーム／カプリッチオ ニ長調 (オルガン)

7 G.F.Händel / Aus Neun Arien

G.F.ヘンデル／九つのドイツアリアより

Nr. 3 Süßer Blumen (Ten,Fl,B•C)

Nr. 7 Die ihr aus dunklen Grüften (Ten,Ob,B•C)

Nr. 8 In den angenehmen Büschen (Ten,Fl,B•C)

8 J.S.Bach / Trio Sonate g-moll BWV1029 (Fl,Ob,B•C)

J.S.バッハ／トリオ ソナタ ト短調 BWV 1029

(フルート, オーボエ, 通奏低音)

プロフィール



佐々木 正 利

(テノール)

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。声楽を畑中良輔、須賀靖元、小林道夫、森明彦の各氏に、楽理を服部幸三、角倉一朗の各氏に、作曲を松本民之助氏に、宗教音楽を岳藤豪希氏に師事。芸大在学中より、バロックから現代に亘る宗教作品、特にJ.S.バッハの声楽曲に深い造詣を示し、芸大メサイア公演、定期演奏会はじめ、大学・一般合唱団と多数共演。特に1978年芸大マタイ受難曲公演にて、福音史家として高く評価され、以後そのスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。1979年シュトゥットガルトに渡り、ローレ・フィッシャー教授に師事。同年南ドイツにて数回歌曲リサイタルを開き好評を博す。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年まで、デットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、ヘルムート・クレッチマル教授に師事。この間、同大学定期演奏会でドヴォルザーク・レクイエムのテノール・ソロをつとめたのははじめ、ドイツ、オーストリア、スイス、フランス、オランダ、ベルギー各地で一流オーケストラ・合唱団と多数共演。1980年ウィーン楽友協会ホールに於けるマタイ受難曲においては「若き日のペーター・シュライヤー」と新聞各紙で絶賛される。1982年ハンブルク・ブリュッセルのロ短調ミサでは特に高い評価を得た。帰国後もN響、読響、都響、日フィル、新日フィル、東響の定期演奏会に出演し、K・マズア、H・シュタイン、H・ブロムシュテット、H・リリング、H・ヴィンシャーマン、小沢征爾、秋山和慶の各氏等と共演。1985年ザルツブルグ音楽祭に招かれ、R・バーダー指揮のベルリン聖ヘドヴィヒ聖歌隊、ザルツブルグ・モーツァルト管弦楽団とバッハ、モーツァルトのソロを歌い好評を博す。滞独中オペラでは、コシ・ファン・トウッテ・フェランド、フィデリオ・ヤッキーノ、スカララッティ・グリゼルダ・コッラード等で出演。現在までリサイタル8回、NHK-FMリサイタル3回等歌曲の分野でも活躍。1987年にはH・リリング音楽監督のバッハ・アカデミーにてテノール・マスタークラスの講師を務める。長年

に亘り、小林道夫氏のもと東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの指揮者をつとめ、後進の指導にあたる。現在岩手大学教育学部音楽科助教授。二期会会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。



細 川 順 三

(フルート)

三村園子、小泉剛、吉田雅夫の各氏に師事。1971年第40回日本音楽コンクール第2位入賞。1973年東京芸術大学卒業。同年、札幌交響楽団に入団。翌年より首席奏者。1976年より1年間、文化庁海外派遣研修員としてスイス・バーゼル市立音楽院に留学、ペーター・ルーカス・グラーフ氏に師事。

1978年ジュネーブ国際音楽コンクール入賞。1986年札幌交響楽団を退団、東京芸術大学管弦楽研究部オーケストラを経て、1987年NHK交響楽団に入団。

東京芸術大学フルート科講師。ソロ・室内楽の分野に於いても活躍している。



小 畑 善 昭

(オーボエ)

1975年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。1978年同大学院修了。この間オーボエを似鳥健彦、梅原美男の両氏に師事。また、第42回NHK毎日音楽コンクール

(1973年、現日本音楽コンクール) 管楽器部門第3位入賞。1979年より1982年まで東京交響楽団に在籍。

1982年より1985年まで西ベルリンへ留学。ハンス・エルク・シェレンベルガー、ブルクハルト・ローデの両氏に師事。

現在は新日本フィルハーモニー管弦楽団の首席オーボエ奏者を務める傍ら、独奏及び室内楽、古楽器(バロックオーボエ)などの活発な演奏活動をくり広げている。



鈴木 雅 明

(オルガン・チェンバロ)

神戸に生まれる。12才より教会のオルガニストを勤め、東京芸術大学作曲科にて、故矢代秋雄に師事。卒業後、同大学大学院オルガン科に於いて広野嗣雄に師事すると共に、古楽研究会に於いてチェンバロを鍋島元子に学んだ。さらに1979年よりアムステルダム・スウェーリンク音楽院に進み、チェンバロをトン・コープマン、オルガンをピート・ケーに師事。同音楽院よりチェンバロとオルガン双方のソリスト・ディプロマを得た。その間、1980年にはブルージュ国際チェンバロ・コンクール(通奏低音部門)において第2位(1位なし)、1982年には同オルガン・コンクールに第3位入賞を果たした。西ドイツ・デュイスブルク国立音楽大学講師を経て、現在、松蔭女子学院大学(神戸)、及び、桐朋学園大学(東京)にて教鞭をとっている。松蔭女子学院大学に於いては、特別に音響設計されたチャペルとマルク・ガルニエ製作によるフランス・クラシックオルガンを用いて、積極的にコンサートシリーズを企画する他、全国各地でチェンバロ・オルガン奏者及び指揮者として演奏活動を行い、またオランダ・ドイツ・フランスを中心とするヨーロッパ各地では、毎年コンサート・ツアーを行なっている。とくに昨夏のオランダ・ハーレムでのリサイタルでは、「オルガンを知りつくした生気あふれる雄大な演奏…」と紙上で絶賛された。プロテスタント教会音楽の研究も手がけ、特にカ

ルヴァンの詩篇歌の普及に努めている。日本キリスト改革派東京恩寵教会オルガニスト。



■賛助出演

寺 下 徹

(ファゴット)

長崎に生まれる。立教大学文学部独文科卒業後、東京芸術大学を経て、ミュンヘン国立音楽大学に留学。1981年同大学卒業後帰国。ファゴットを故三田平八郎、K・コルビンガー、K・トウーネマンの各氏に師事。

立教大学在学中は、皆川達夫氏に西洋音楽史、キリスト教音楽史を師事。東京芸大在学中は、同大学バッハ・カンタータ・クラブに在籍し、小林道夫氏、佐々木正利氏らと演奏活動を共にする。ドイツより帰国後は岡山・作陽音楽大学の講師として招かれる。その後、活動の場を郷里・九州に移す。1979年にはシュトゥットガルトで開かれた第1回バッハアカデミーに参加。現在は長崎大学教育学部音楽科講師を務める傍ら、九州交響楽団に客演の他、各地で室内楽やソロ活動を活発に行なっている。





M. ザスマンチェンバロ No2. 3
 Christian Zell-1728-による二段鍵盤チェンバロ
 FF-d² 4', 8', 8'+L
 2.45m × 0.94m / 72kg
 ¥5,600,000

大バッハを育てたのは ドイツの音楽風土であった 今 そのドイツから ザスマン・チェンバロ

バッハ、ヘンデルに代表されるバロックの時代は、チェンバロの全盛期でもありました。彼の生地・ドイツでは、今もそうした音楽風土がみなぎっていて、本物を志向する人たちのために、世界的なチェンバロの名器が作りだされています。ザスマン・チェンバロ。

古典楽器としてのチェンバロの原型や、豊富な文献を徹底的に研究しつくし、その充実した基盤の上に、高度な最新技術を注ぎ込んだ、いわば本場のチェンバロです。深みのある、ゆたかな音色が身上。ウテの冴えたヨーロッパのクラフトマンが、良質の木の美しさをみごとに引きだして、格調高いフォルムに仕上げています。

●取扱いモデル スピネット／ヴァージナル／イタリアン／ルッカーズ／タスカン／ツェル／フレイミッシュ 他

M. ザスマン日本総代理店

お問合せ・カタログ請求：

my murama su 村松楽器販売株式会社

東京都新宿区西新宿8-4-5 PHONE 03-367-6000
 名古屋市千種区内山1-18-10 PHONE 052-733-8822

歌詞対訳

J・S・Bach

Qui tollis peccata mundi

(aus Messe g-moll)

Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dextram Patris,
miserere nobis.

世の罪を除きたもう主よ、
我らをあわれみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、
我らの祈りをうけたまえ。
父の右に座したもう主よ、
我らをあわれみたまえ。

Benedictus

(aus Messe h-moll)

Benedictus qui venit in nomine Domini.

ほむべきかな、主の御名によりて来たる者。

G. F. Händel 「9曲のドイツアリアより」

川端純四郎 訳

甘い花の籠遊の香りの毳毛よ、
お前たちあの退色の光で私を誘っておくれ。
お前たちをお作りになった方を賛美するようにと。
お前たちが散っていく時、
私は天に舞いあがって歌おう、
世界をお作りになった方を。

Süßer Blumen Ambrastlocken
Süßer Blumen Ambrastlocken,
Ever Süßer soll mich locken,
Dem zum Ruhm, der euch gemacht.

Da ihr fällt, will ich mich schwingen
Himmelwärts und den besingen.

Der die Welt hervorgebracht.

お前たち、暗い墓穴から
むなしい財宝を掘り出す者たちよ、
気付きなさい、外のこの太空の下に、
どんなに豊かな宝をお前たちが持っているかを。
罵ってはいけない、それはうわへの色、
見せかけにすぎないのと。
それは金庫の中に計算して、しまいこめるようなものではないのだ。

Die ihr aus dunklen Grüften
Die ihr aus dunklen Grüften
Den eillen Mammon grabt,
Seht, was ihr hier in Lüften
Für reiche Schätze habt.
Sprecht nicht: Es ist nur Farb
und Schein,
Man zählt und schließt es nicht im Kasten ein.

快い茂みの中で、
光と影が混じり合うところで、
静かな喜びにひたりながら、
目と心は爽快さを求める。
すると胸の中で
私の充たされた思いが高まって
創造者の恵みを賛め歌うのだ。

In den angenehmen Büschen
In den angenehmen Büschen,
Wo sich Licht und Schatten mischen,
Suchet sich in stiller Lust
Aug' und Herze zu erfrischen.
Dann erhebt sich in der Brust
Mein zufriedenes Gemüte
Und lobsingt des Schöpfers Güte.